



「円滑な接続」

指導担当次長 酒井 暁彦

親、保育者、教師など、子供に関わる者にとって、子供ひとり一人の「やってみたい」、「できるようになりたい」という気持ちを引き出すことは、大きな関心事ではないかと思います。そこには、「やってもらいたい」「できるようになってもらいたい」という大人側の願いも同時にあるかと思えます。ただ、その願いを子供たちの前で出しすぎてしまうと、本来私達が一番育てたい子供たちの主体性を損ねてしまうことは周知のとおりです。

先日見た、小学校算数の授業（単位量当たりの大きさを比べる）では、「やってみたい」、「できるようになりたい」という気持ちを児童が自己発揮している姿を見ることができました。間違いを恐れず意見を言える、友達の発表をしっかりと温かく聞ける、そんな心理的安全性のある学級でした。教師の興味で学習環境を作っているのではなく、教師の指示を極力減らし、問いかけを多くしながら、学習形態（個別で、友達と、先生と）や使う道具（計算機、タブレット、補助シートなど）を児童自身の意志で選べる環境を作っており、授業の中に「自己決定」「試行錯誤」「対話交流」の場面が多く取り入れられ、全体で共有する頃には、様々な意見が出て、深い学びにつながっていました。

私は、ある幼稚園訪問の翌日に、この授業を見たこともあり、幼児教育で大切にされている環境の構成に重なる授業づくりをしていて、とても嬉しくなりました。当然、小学校教育の基盤は幼児教育にあり、その後、中学校、高校とつながっていきますが、この授業を見て、子供たちの発達や学びは連続していると、あらためて感じました。

この時期になると、各幼児教育施設では、卒園や春の小学校入学に向けた準備で慌ただしくなっているかもしれません。小学校も、新入生が学校生活に慣れるよう、スタートカリキュラムを編成し、ゆるやかに接続できるよう準備を始める時期かと思えます。小学校の教科書にも幼児期の遊びや生活で体験した素地が生活科を中心に各教科に組み込まれています。新品のランドセルで登校する1年生というと、つい「一から教えてあげなくては」となりがちですが、決してゼロからのスタートではなく、就学するまでに物事に積極的に取り組んで様々な失敗を繰り返しながら、自分なりの生活をつくっていくことができるようになっていくことは理解しておきたいものです。

こうした子供たちの健全な成長を支える架け橋期に、立場を超えた大人同士（地域も含め）で子供たちがどんなことに関心を持ち、どんな願いをもっているかなどについて話し合う場が必要不可欠だと思います。引き続き、子供たちの豊かな成長を心から願うとともに、各地域の実態に沿った具体的な取組に期待いたします。

保幼小連携としての取組

6月に行われた保幼小研修会では、架け橋期のカリキュラム作成に向けて、幼児教育アドバイザーの塩崎政江先生に保幼小連携の大切さ、そして架け橋カリキュラム作成の必要性についてお話しいただき、共通理解を図りました。その後、地区ブロック研修会では各校園所の保育・教育方針やこどもの実態について情報を共有し、話し合いながらカリキュラムの作成に取り組みました。

架け橋期のカリキュラム(例)

地区内のカリキュラムシート3枚で架け橋期のカリキュラム全体が完成!

The image shows three overlapping curriculum sheets. The first sheet on the left is labeled '【園所シート】' (Nursery School Sheet). The middle sheet is labeled '【共通シート】' (Common Sheet). The third sheet on the right is labeled '【小学校シート】' (Elementary School Sheet). Each sheet contains detailed tables and text related to curriculum planning.

活用の仕方について

保育や授業を行う際に、ぜひカリキュラムを参考にして環境の構成や教師の関わり方のヒントにしてみてください。

例えば…5歳児(1月～3月)

環境の構成

・幼児同士で教え合ったり助け合ったりできるように、ルールのある遊びを取り入れたり、集団で遊ぶ場を設けたりする。

ドッジボールやしっぽ取りなど協力する必要がある遊びを紹介してみよう。

教え合ったり助け合ったりしている姿がみられたら、褒めるようにしましょう。

例えば…1年生(5月～7月)

環境の構成

・友達同士で相談したり解決したりできるように、ペアワークやグループワーク等の場の設定をしたり思いを伝え合う時間を十分確保したりする。

学校探検のルートやインタビュー内容など相談し合う活動を設定してみよう。

意見や考えを十分伝え合えるように、ここでは時間を確保しよう。

9月～1月の地区ブロック研修会では、代表校園所の保育・授業を参観しました。こどもたちを見守り、寄り添う先生の関わり、そしてこども主体の活動を繰り返し広げる保育・授業がたくさん見られました。安心できる環境、信頼関係づくりができていると、こどもたちは主体的に取り組み、自己発揮ができます。

園所

小学校



見守り・寄り添い



園所

小学校



こども主体の活動



市立幼稚園保育研究会

11月18日（火）、19日（水）に市立おおご幼稚園にて市立幼稚園保育研究会が開催されました。『生き生きと活動に取り組み遊び続ける幼児の育成～一人一人の「やってみたい！」に視点を向けた環境の構成～』をテーマに、研究会を行いました。2日間で幼稚園、保育所、保育園、認定こども園、小学校、行政など様々な立場の方、延べ70名の参加がありました。

全体会では群馬大学の島みずき准教授をお招きし、「幼児の『やってみたい！』を支えるための環境について」ご講演いただきました。



公開保育

たくさんの「やってみたい！」を支える環境の構成を発見！

チョコレートのお菓子を作りたい！

どれにチョコを塗ろうかな。



作ったものを見せたいな。



ドッジボールをするからコートをかこう！

こっちまで線を引いて。



支える環境

- ・たくさんの自然物
- ・イメージが膨らむ本物の道具（スプーン、おたま、トレイ等）

支える環境

- ・教師がモデルとしてお客になる
- ・集まりやすい机の配置

支える環境

- ・自由に使える道具（じょうろ）
- ・のびのびと遊べる場の確保

参加者からの感想より

- ・こどもが手に取りやすい位置に、分かりやすいように教材、楽器などが置いてあり、こどもたちがその時したい！と思ったことをすぐに出来る環境が整っていて素晴らしいと思いました。
- ・朝登園してから、お昼前までこどもたちがじっくり遊び込める時間が確保されていてすごいと思いました。また、先生方がこどもの遊びをきちんと見取った上で見守ったり、子供に判断を任せたりしている姿が印象的でした。

学年別協議会

各園所の先生方と有意義な意見交換ができました！



参加者からの感想より

- ・担当学年の先生方と話す機会を設けていただき、日頃の保育の参考になりました。
- ・こども一人一人のやってみたいを大切にし、できることから取り組んでいきたいと思える研究会でした。





こども教育研修会から



今年度も多くの先生方に、こども教育研修会に参加していただきました。参加していただいた先生方からの感想を一部紹介します。

演題・講師	参加した先生方の感想
「トキメキ・ヒラメキ・イメージが生まれる保育環境 ～やってみたいが学びの芽!から考える～」 大阪総合保育大学 教授 瀧川 光治	年齢に応じたヒラメキ・トキメキがあることを具体的に知ることができました。「やってみたい」がすべての学びの芽であり、環境や働きかけがいかに大事であるかを改めて感じることができました。
「子どもは集団の中で伸びる ～発達が気になる子の園の中での手立て～」 渋谷区子ども発達相談センター チーフアドバイザー 市川 奈緒子	いろいろな発達の特性を詳しく知ることができ、本人が1番辛い思いをしている、困っているということにハッとしました。“障害の理解”ではなく、“その子”の理解を深め、頑張っている時、できた時にたくさん褒めてフィードバックできるような保育をしたいです。
「こどもの心を育む 手遊び・コミュニケーション遊び」 幼児教育アドバイザー 田中 輝幸	実技系の研修会が久しぶりだったので、とても楽しかったです。「こどもに遊びを合わせる」「遊びに正解はない」という言葉が印象に残りました。アレンジがしやすく、すぐに取り入れられるような遊びや手遊びばかりだったのでとても参考になりました。
「遊びの中の“非認知能力” 非認知能力を育てる環境を考える」 幼児教育アドバイザー 大島 みずき	普段している遊びが本当に自発的な遊びなのかを振り返る良い機会となりました。こどもが何に興味・関心をもっているのかをよく把握し、保育士の願いだけが強くならないように環境を構成することが大切だと気付きました。全てを与えるのではなく、さりげなく環境を設定し、こどもたちが考える機会を大切にしていきたいです。
「気になる幼児の理解と対応 ～ティーチャー・トレーニングを通して～」 群馬大学 講師 十枝 はるか	こどもを客観的に観察し、実際に行動観察シートを書いてみると問題行動だけでなく、その理由や原因、普段自然にしている行動にも褒めるべき点が沢山あることに気付きました。また自分の対応や、その時に感じた気持ちも記録に残ってよいと感じました。
「保護者を支えるために ～保育者としての関わり～」 幼児教育アドバイザー 奥野 みどり	保護者対応の実践をペアでやってみると、聞く時の態度や目線などで感じ方が全然違うことに気付きました。普段の対応を振り返る参考にしたいと思います。信頼関係を築いたその先に、繋がる提案ができるようになりたいと思いました。
「幼児期に大切にしたい経験」 幼児教育アドバイザー 横坂 好枝	教育要領や指針は大切だと分かっていても、なかなか目を通すことができていませんが、こどもにとってどのような環境、経験が大切か、ということはやはり指針等から考えることが基本であることが学べました。つついちゃうやってしまうをなくし、こどもの成長しようとする力を支える環境づくりを意識した保育を心掛けたいです。
「一枚の写真から保育を語り合おう」 幼児教育アドバイザー 永井 広子	一枚の写真から読み取れることがたくさんあり、他園の先生方と語り、学び合えたことがよかったです。自分にはない考えも聞くことができ、よい学びになりました。思わずすぐに声をかけてしまいがちですが、見守ったり、こども自身に任せたりすることも大切だと感じました。



来年度の研修は
4月に前橋市のホームページ
にて案内いたします。